

## 修正内容一覧

| 物質ID | 物質名                         | CAS番号     | 項目               | 修正前           |       |       |                    |      | 修正後  |               |       |         |                   | 備考 |  |           |
|------|-----------------------------|-----------|------------------|---------------|-------|-------|--------------------|------|--|---------------|-------|---------|-------------------|----|--|-----------|
|      |                             |           |                  | 分類結果          | 絵表示   | 注意喚起語 | 危険有害性情報            | 注意書き | 分類結果   | 絵表示           | 注意喚起語 | 危険有害性情報 | 注意書き              |    |  |           |
| 16   | キシレン                        | 1330-20-7 | 急性毒性（経皮）         | 分類できない        | -     | -     | -                  |      | ウサギを用いた経皮投与試験のLD50 => 4.350 mg/kg (IUCLID (2000)) に基づくと、区分5または区分外と考えられるが、確定値が得られていないので、分類できないとした。  | 分類できない        | -     | -       | -                 |    | ウサギを用いた経皮投与試験のLD50 > 4.350 mg/kg (IUCLID (2000)) に基づくと、区分5または区分外と考えられるが、確定値が得られていないので、分類できないとした。 | 2013.8修正  |
| 82   | アセトアルデヒド                    | 75-07-0   | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2           | 感嘆符   | 警告    | 重篤な眼への刺激           |      | ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、「強度の刺激性」がみられ、非可逆的な影響と報告されていない (ACGIH (7th, 2001)) ため、区分2とした。  | 区分2           | 感嘆符   | 警告      | 強い眼刺激             |    | ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、「強度の刺激性」がみられ、非可逆的な影響と報告されていない (ACGIH (7th, 2001)) ため、区分2とした。                    | 2014.10修正 |
| 141  | ジクロロメタン                     | 75-09-2   | 水生環境有害性（急性）      | 区分2           | -     | -     | 水生生物に毒性            |      | 魚類（ファットヘッドミノール）の96時間 LC50=5.2mg/L (EHC164, 1996) から、区分2とした。  | 区分3           | -     | -       | 水生生物に有害           |    | 甲殻類（オオミジンコ）の48時間LC50=27 mg/L (CaPSAR, 1993) から、区分3とした。   | 2013.8修正  |
| 141  | ジクロロメタン                     | 75-09-2   | 水生環境有害性（長期間）     | 区分2           | 環境    | -     | 長期的影響により水生生物に毒性    |      | 急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いものの (BCF=40 (既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない (BODによる分解度: 13% (既存化学物質安全性点検データ)) ことから、区分2とした。   | 区分外           | -     | -       | -                 |    | 揮発性が高く速やかに大気中に揮散し、かつ生物蓄積性が低い (BCF=40 (既存化学物質安全性点検データ)) ことから、区分外とした。                              | 2013.9修正  |
| 164  | トリニトロトルエン                   | 118-96-7  | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A          | 感嘆符   | 警告    | 重篤な眼への刺激           |      | CERIハザードデータ集(2001)のヒトで眼に対し刺激性を有するとの記述から、区分2Aとした。   | 区分2A          | 感嘆符   | 警告      | 強い眼刺激             |    | CERIハザードデータ集(2001)のヒトで眼に対し刺激性を有するとの記述から、区分2Aとした。   | 2014.10修正 |
| 324  | N-エチルアニリン                   | 103-69-5  | 金属腐食性物質          | 区分外           | -     | -     | -                  |      | データがなく分類できない。国連危険物輸送通告がクラス・区分6.1 (国連番号2272)。   | 分類できない        | -     | -       | -                 |    | データがなく分類できない。国連危険物輸送通告がクラス・区分6.1 (国連番号2272)。   | 2017.10修正 |
| 515  | p-アミノフェノール                  | 123-30-8  | 可燃性固体            | 区分外           | -     | -     | -                  |      | HSDB(2006)では可燃性としているが、データがなく分類できない。国連危険物輸送通告がクラス・区分6.1 (国連番号2512(o-, m-, p-))。   | 分類できない        | -     | -       | -                 |    | HSDB(2006)では可燃性としているが、データがなく分類できない。国連危険物輸送通告がクラス・区分6.1 (国連番号2512(o-, m-, p-))。                   | 2014.10修正 |
| 651  | インベンチルアルコール【イソアミルアルコール】     | 123-51-3  | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A          | 感嘆符   | 警告    | 重篤な眼への刺激           |      | ウサギの眼に強い刺激を与えていること (ACGIH (2001)) から、「区分2A」とした。  | 区分2A          | 感嘆符   | 警告      | 強い眼刺激             |    | ウサギの眼に強い刺激を与えていること (ACGIH (2001)) から、「区分2A」とした。  | 2014.10修正 |
| 749  | シアナミド                       | 420-04-2  | 皮膚感受性            | (約10%液状品) 区分1 | -     | -     | -                  |      | 皮膚感受性はモルモットの試験結果より13.34%液剤原液にたいして陽性と認められた (農業抄録 (2002) ) ので区分1とした。   | (約10%液状品) 区分1 | 感嘆符   | 警告      | アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ |    | 皮膚感受性はモルモットの試験結果より13.34%液剤原液にたいして陽性と認められた (農業抄録 (2002) ) ので区分1とした。                               | 2015.3修正  |
| 755  | 4,4'-ジアミノ-3,3'-ジメチルジフェニルメタン | 838-88-0  | 生殖細胞変異原性         | 区分2/分類できない    | 健康有害性 | 警告    | H341: 遺伝性疾患のおそれの疑い |      | P308+P313: 暴露又は暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。<br>P201: 使用前に取扱説明書を入手すること。<br>P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。<br>P281: 指定された個人用保護具を使用すること。<br>P405: 施設して保管すること。<br>P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。<br>In vivoの試験結果はなく、Ames試験で陽性 (IUCLID (2000) ) の結果があるが、データ不足で「分類できない」とした。 | 分類できない        | -     | -       | -                 |    | In vivoの試験結果はなく、Ames試験で陽性 (IUCLID (2000) ) の結果があるが、データ不足で「分類できない」とした。                            | 2019.7修正  |
| 784  | 2,6-ジターシャリブチル-4-クレゾール       | 128-37-0  | 発がん性             | 区分外           | -     | -     | -                  |      | ACGIHの分類がA4、AIRCがグループ3により区分外とした。   | 区分外           | -     | -       | -                 |    | ACGIHの分類がA4、IARCがグループ3により区分外とした。   | 2014.10修正 |
| 794  | ジベンゾイルベルオキシド                | 94-36-0   | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A-2B       | 感嘆符   | 警告    | 重篤な眼への刺激           |      | ウサギにばく露後、24, 48, 72時間後に刺激性が認められる (SIDS, (2002)) が、試験または試験方法によって刺激性の程度に差がある。よって区分2A-2Bとした。  | 区分2A-2B       | 感嘆符   | 警告      | 強い眼刺激             |    | ウサギにばく露後、24, 48, 72時間後に刺激性が認められる (SIDS, (2002)) が、試験または試験方法によって刺激性の程度に差がある。よって区分2A-2Bとした。        | 2014.10修正 |
| 894  | バラ-ジメチルアミノアゾベンゼン            | 60-11-7   | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A-2B       | 感嘆符   | 警告    | 重篤な眼への刺激           |      | ICSC(E) (2005)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。  | 区分2A-2B       | 感嘆符   | 警告      | 強い眼刺激             |    | ICSC(E) (2005)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。  | 2014.10修正 |

|      |  |                         |                  |         |      |      |          |   |         |      |      |       |   |                            |
|------|--|-------------------------|------------------|---------|------|------|----------|---|---------|------|------|-------|---|----------------------------|
| 1109 | 亜塩素酸ナトリウム  | 7758-19-2               | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 重篤な眼への刺激 | ヒトへの影響におけるICSC(J)(2000)、HSFS(2000)、HSDB(2002)の記述(刺激性あり)およびIUCLID(2000)のウサギのデータ2つ(刺激性あり)から刺激性が明らかである。IUCLIDのデータに細区分の指標となる記載がないため、区分2A-2Bとした。<br>【表示】細区分を行う必要がある場合は、安全性の観点から、2Aとした方が望ましい。 | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 強い眼刺激 | ヒトへの影響におけるICSC(J)(2000)、HSFS(2000)、HSDB(2002)の記述(刺激性あり)およびIUCLID(2000)のウサギのデータ2つ(刺激性あり)から刺激性が明らかである。IUCLIDのデータに細区分の指標となる記載がないため、区分2A-2Bとした。<br>【表示】細区分を行う必要がある場合は、安全性の観点から、2Aとした方が望ましい。 | 2014.10修正                  |
| 1386 | りん化石灰  | 1305-99-3               | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 重篤な眼への刺激 | ICSC(J)(2002)の眼を刺激するとの記述から、眼刺激性があると判断し、区分2A-2Bとした。細区分はできなかった。   | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 強い眼刺激 | ICSC(J)(2002)の眼を刺激するとの記述から、眼刺激性があると判断し、区分2A-2Bとした。細区分はできなかった。   | 2014.10修正                  |
| 1387 | マグネシウム粉  | 7439-95-4               | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 重篤な眼への刺激 | HSDB (Access on Jun 2005)、HSFS(1999)およびSITTIG(4th, 2002)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。回復性についてのデータはないため細区分はしなかった。   | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 強い眼刺激 | HSDB (Access on Jun 2005)、HSFS(1999)およびSITTIG(4th, 2002)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。回復性についてのデータはないため細区分はしなかった。   | 2014.10修正                  |
| 1389 | 亜ニチオン酸ナトリウム (別名ハイドロサルファイト)   | 7775-14-6               | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 重篤な眼への刺激 | IUCLID (2000) のウサギを用いた試験で刺激性が認められたとの記述から、区分2A-2Bとした。回復性が不明であることから細区分はできない。  | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 強い眼刺激 | IUCLID (2000) のウサギを用いた試験で刺激性が認められたとの記述から、区分2A-2Bとした。回復性が不明であることから細区分はできない。  | 2014.10修正                  |
| 1391 | 過塩素酸カリウム   | 7778-74-7               | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 重篤な眼への刺激 | ICSC(J)(1999)、HSDB (2005)およびHSFS(2002) のヒトへの影響として眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明であるので細区分はできなかった。   | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 強い眼刺激 | ICSC(J)(1999)、HSDB (2005)およびHSFS(2002) のヒトへの影響として眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明であるので細区分はできなかった。   | 2014.10修正                  |
| 1392 | 過塩素酸ナトリウム  | 7601-89-0               | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 重篤な眼への刺激 | ICSC(J)(1999)およびHSFS(2002) の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明のため細区分はできなかった。  | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 強い眼刺激 | ICSC(J)(1999)およびHSFS(2002) の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明のため細区分はできなかった。  | 2014.10修正                  |
| 1393 | 過塩素酸アンモニウム   | 7790-98-9               | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 重篤な眼への刺激 | HSDB (2005)の粘膜を刺激するとの記述、およびHSFS(2002) の眼を刺激する可能性を示唆する記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明であるので細区分はできなかった。   | 区分2A-2B | 感嘆符  | 警告   | 強い眼刺激 | HSDB (2005)の粘膜を刺激するとの記述、およびHSFS(2002) の眼を刺激する可能性を示唆する記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明であるので細区分はできなかった。   | 2014.10修正                  |
| 837  | テトラクロロジフルオロエタン【CFC-112】<br>1,1,2,2-テトラクロロ-1,2-ジフルオロエタン (別名: CFC-112) | 76-12-0                 | 変更なし             | 変更なし    | 変更なし | 変更なし | 変更なし     | 変更なし  | 変更なし    | 変更なし | 変更なし | 変更なし  | 変更なし  | 2022.3修正                   |
| 258  | 炭酸カドミウム  | 513-78-0、<br>93820-02-1 | 変更なし             | 変更なし    | 変更なし | 変更なし | 変更なし     | 変更なし  | 変更なし    | 変更なし | 変更なし | 変更なし  | 変更なし  | 2023.3<br>紐づけCAS RN<br>を追記 |